

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年10月1日放送分・榴ヶ岡／二十人町】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今回は、仙台二十人町郵便局そばの矢先神社からスタート。東番丁に行く旅もいよいよ終盤です。小さなお社ですが、弓鉄砲を扱う足軽達が精神的な拠り所として祀った神様。城下町にはこうした神社が町ごとに建立され、信仰を集めていました。二十人町は名掛丁の東に割り出され、特別に功労のあった鉄砲足軽二十人衆が配置された町です。彼らは矢先神社の境内で弓鉄砲の稽古を行いましたが、お城の方向に撃っても良いという特権が与えられていました。
- 矢先神社の鳥居のそばには、明治時代に四ッ谷用水第一流の末端を越え、遊郭へと渡った「思案橋」の親柱のうち2本が移されて残っています。元の場所は、二十人町通の旧X橋の東側。草むらに埋もれてしまっていますが、見つけてみて下さいね。この「思案橋」、遊郭へ渡るか渡るまいか思案した橋って事で、全国にあるそうです。長崎の歓楽街が有名ですよ。

- さて、旅のテーマである東番丁。いよいよ東の端となる東十番丁です。ここまで来るともはや、整然とした南北の通りではありません。二十人町より南、榴岡の南側と西側の裾に沿うように作られた通りです。その一部である榴岡天満宮の南側参道下には、仙石線が地上を走っていた頃の「東十番丁踏切跡」というコンセキが、歩道に埋め込まれています。



〈文・佐々木淳吾〉

- 今月の辻標「榴ヶ岡／二十人町」があるのは、県NPOプラザの南西側。四代藩主・伊達綱村が母の菩提を弔うため釈迦堂を建てた場所で(現在は榴岡の孝勝寺に移築)、綱村は周辺に桜を植えたり、馬場を設けたりと、身分の隔てなく人々が楽しめる場所に整備したのでした。
- さて、東番丁を歩くうち見えてきた旅のテーマ。それは塩釜港から仙台城へと続く、城下町の物流の東西の軸線です。次回以降も、周辺の散策は続きます。お楽しみに！

